

200601 五反田の長期データと 2016 年 4 月 熊本地震の前兆について

A、＜2016 年 4 月 14 日 M6.3 の前震および 16 日 M7.0 の本震が発生した熊本地震の場合の高知 B449 の長期データの経過について＞

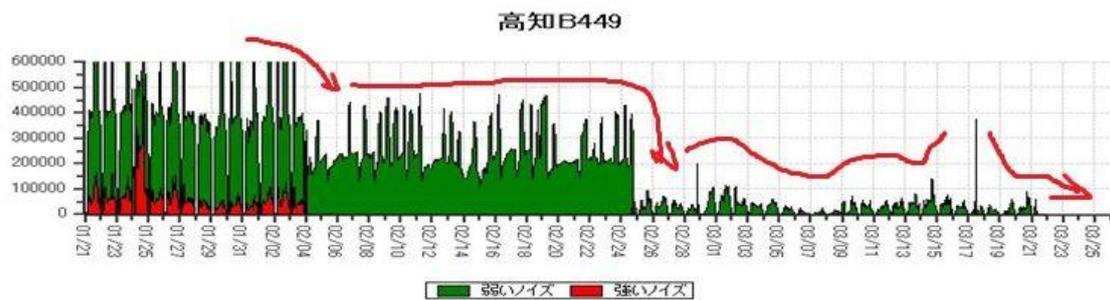
高知 B449 約 2 年間のデータ（当初 広島と同期していた）



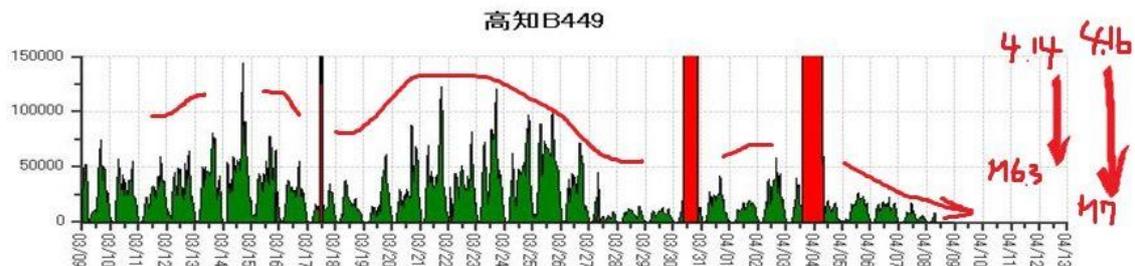
2016 年 1 月以降、段階的に減衰していく。



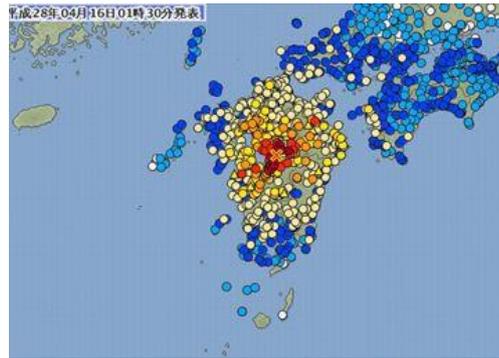
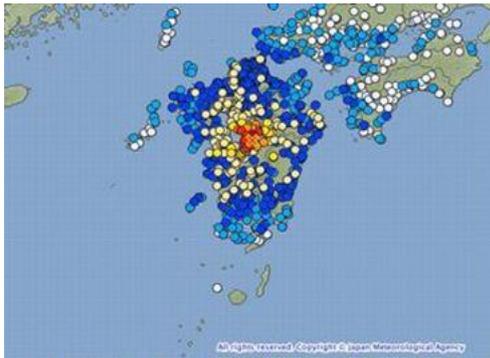
2016 年 2 月 4 日第一段階の減衰 2 月 24 日頃 第二段階の減衰が発生。



2 月 25 日以降、小さい山の形を繰り返す減衰をして 4 月上旬ごろに収束する。



熊本地震>2016年4月14日 M6.3 の前震発生、2日後4月16日に M7.0 の本震発生



2016年4月14日 M6.3 の前震発生

2日後4月16日に M7.0 の本震発生

~~~~~

B <2020年6月1日までの五反田の長期データの経過について>

1、2016年2月~2019年1月まで 五反田観測点の3年間（1080日）日毎データ



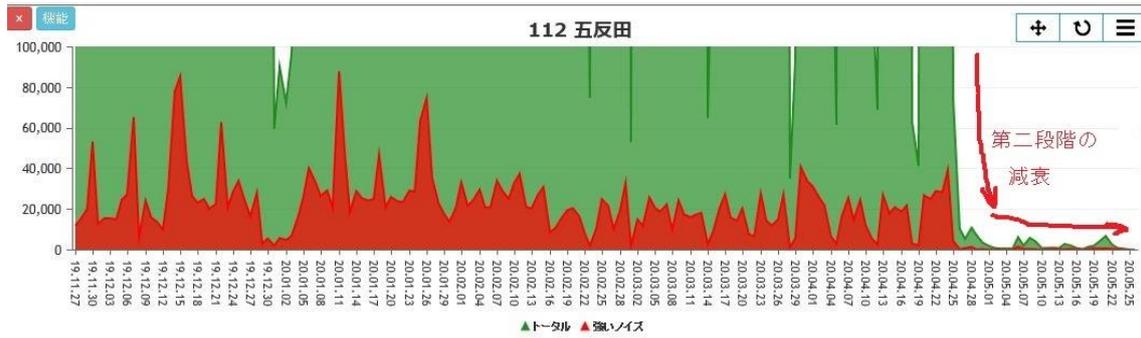
2、2018年12月20日頃 第一段階の減衰が発生し、2020年5月1日ごろに第二段階の減衰が起きる。



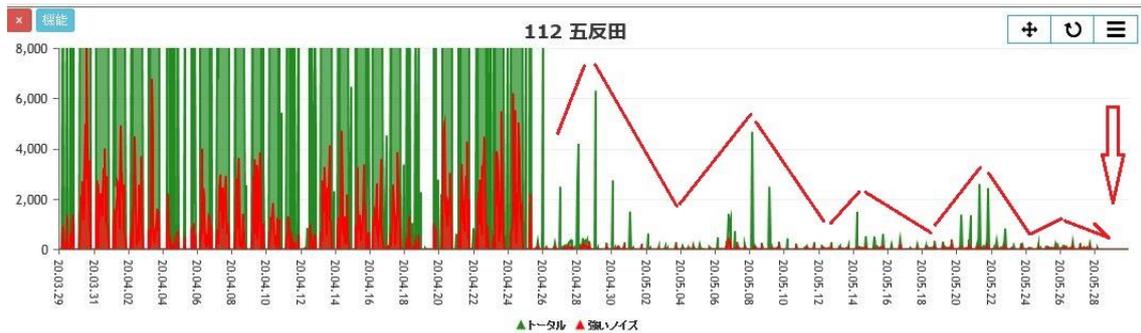
3-01、2020年4月末日ごろの第二段階の減衰の状況（時間毎）。



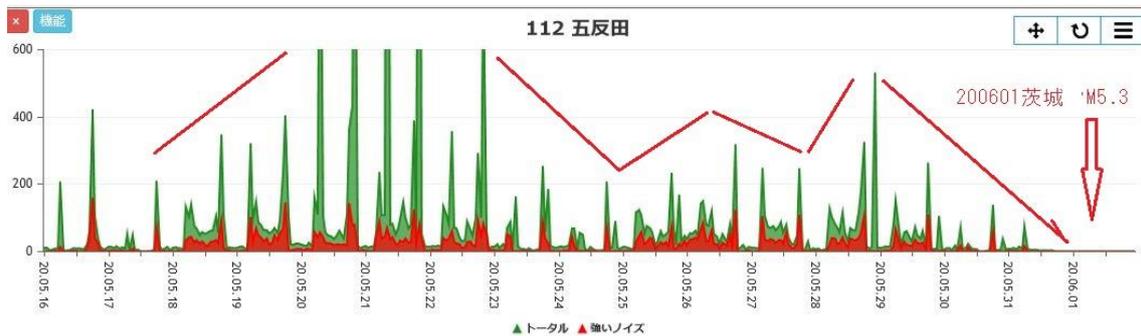
3-02 2020年4月末ごろの第二段階の減衰の状況 (日毎データ)。



4、2020年4月末ごろの第二段階の減衰のあとは、小さい山の形を繰り返して徐々に減衰し、5月末ごろに収束する。



5、2020年5月31日ごろのほぼ完全な収束。



7、2020年6月1日 茨城県北部 M5.3 が発生。



C はたして この 2020 年 6 月 1 日 茨城県北部 M5.3 は前震で もっと大きな本震が  
この後に来るか?について。

考察 (200601 現在) :

今回の五反田の長期データとその収束は 2016 年 4 月の熊本地震の経過に良く似ている。  
そこでまず熊本地震の前兆データの経過を記す。

2016 年 4 月の熊本地震については その 2 年以上前から 広島と高知 B449 のデータが  
同期した形で大きくなり、長期に渡って続いた。その後、広島のデータが先に減衰したが  
高知 B449 の観測点は大きなデータを出し続けた。しかし 2016 年 2 月 4 日ごろに データ  
が 1 ランク下がる、第一段階の減衰をして さらに同年の 2 月 24 日頃 第二段階の減衰が  
発生した。データは 2 月 25 日以降、小さい山の形を繰り返す減衰をして 4 月上旬ごろに  
収束して 2016 年 4 月 14 日 M6.3 の前震発生が発生した。

この前震を持って、当時の気象庁の会見ではこれを本震と発表した が 約 2 年間以上続い  
た我々のデータでは M6.3 では小さいと考えられたので、関係者には M6.3 は前震であって  
この後、2~3 日でまだ本震が来る可能性が大きいと伝えた。その結果、2 日後 4 月 16 日に  
M7.0 の本震発生が発生した。

今回の五反田の長期データは このときの熊本地震の前兆の経過に良く似ており、長期の  
データが収束して来た地震が M5.3 と小さいことから このあとに M6 を超える本震が  
控えている可能性は大変高いと思われます。

念のため、今日、明日は関東地方の大きな地震に十分な注意が必要とお考えください。